


聖母教育支援センター ボランティア室便り

2025年6月



ごあいさつ

2019年にボランティア室便りをお届けして以来久しぶりに皆様にボランティア室便りをお届けすることになりました。平素は聖母教育支援センターボランティア室の活動にご理解ご協力を賜りありがとうございます。ボランティア室では子供たちを見守り導くべき「聖母ゆかりの大人」が建学の精神を理解し、具現化し、子供たちへのフィードバックが出来る活動を少しでも担えればと考えており、学内のみならず学外にも目を向け、可能なものは地域行事に参加し、地域にも理解される学院であればとの思いで活動を行っております。各部会手作り品販売の収益金は南三陸町・気仙沼市児童養護施設旭が丘学園・マリアンホーム(石川県被災地)盲導犬、介助犬に寄付させていただいております。今回のお便りではボランティア各部会香里キャンパス(桜樹会)藤森キャンパス(かめの会・藤の会・ガーデニングボランティアサークル)ボランティア室での本年度の活動予定のお知らせ、第10回南三陸町支援ツアー参加者の体験談をお届けいたします。どうぞ一読ください。



香里キャンパス桜樹会

ヌヴェール小学校図書室での共遊の時間の大型紙芝居上演を13回、新作紙芝居の製作、中高等学校での、手作品販売、寄贈品販売、そして今年初めて輪投げゲームの参加も致しました。

学生さん達が、何度も挑戦くださり、景品の駄菓子が瞬く間になくなるという嬉しいアクシデントもあり、多くのご来場様と共に私たちが大いに盛り上がり、楽しませていただきました。

学祭での収益は、各種団体に寄付させていただいております。皆様のご協力感謝申し上げます。

毎年、大阪聖母保育園支援センターにて、イベントのお手伝いもしています。

今年度も、手ぬぐいで作るパンツ作りにスタイ作り、講師として協力致しました。

保育園支援センター主催の秋祭りには、手作りおもちゃ製作のお手伝いにも参加し、小さなお子さん達とのふれあいに心なむ時を過ごさせていただきました。

今年度も様々な活動の中で、会員同士の親睦も深め、それぞれの方々の得意分野を活かしたかと思っております。

私たち、桜樹会は、保護者、卒業生の保護者、卒業生など、聖母にゆかりのある方々が集い活動していますボランティアグループです。

ご自身がやってみたい事を、楽しみながらの活動、ご興味、見学ご希望の方、kouza@seibo.ed.jp までぜひお問い合わせください。 私たちも一人でも多くの方と共に活動出来ますようにお待ちしております。



手作品製作活動



小学校にて紙芝居上演活動



中高等学校にて



中高等学校にて

藤の森キャンパス かめの会

「かめの会」は主に点訳絵本を作っています。

大阪にあります視覚障害を持つ人に点訳絵本を貸し出す活動を行う団体の「てんやく絵本ふれあい文庫」から依頼された絵本を点訳絵本に仕上げてお返りする活動です。

点訳絵本とは、市販の絵本の文章の上に点字の文章を打った透明のビニールシートを貼り、絵の上にも形が手で触ってわかるように透明のビニールシートを切り抜いて貼り付けて、触って読むことが出来る絵本です。点字の勉強は講師をお願いして行っています、教科書と練習問題で勉強します。月1回で足りない勉強は、先生に郵送して添削して頂きます。絵本の点訳は難しい事もありますが、1冊出来上がった時は嬉しいものです。

点字が全く初めての方も大歓迎です。このような活動に興味をお持ちの方や、見学をご希望の方は、お気軽にお越しください。

活動日時： 毎月第3金曜日 10時半から12時(但し7月、12月、3月は第1金曜日)

2025年6月20日(金)・7月4日(金)・9月中高学院祭展示準備及び出展・10月17日(金)・11月21日(金)・12月5日(金)・2026年1月16日(金)・2月20日(金)・3月6日(金)
2025年6月20日点字体験学習を行います。参加希望の方は聖母教育支援センター事務局(kouza@sibo.ed.jp)までお申込みください。

場 所： 聖母女学院法人本館(赤レンガ)2階 211号室



点訳した絵本



点訳学習



中高学祭にて点字体験学習



中高学祭にて点字体験学習



藤森キャンパス 藤の会

正門を入ると目の前に建つ赤レンガの本館、その二階に私たち「藤の会」の活動拠点があります。主に保護者OBや現役の保護者が中心に月に1~2回集まって、お喋りしながらバザーに出す品を作るなど楽しく活動しています。

昨年度を例にとりますと、夏には幼稚園の夏まつり、秋には中高の文化祭や小学校の土曜参観にミニバザーとして参加、また地域の行事「深草100円商店街」にも不要品バザーとゲームコーナーのブースを出しました。それらに向けて、子どもたちが園や学校で使う袋物やお弁当包みなど、シーズンにはクリスマス用品や大人向けのアクセサリなどなど、アイデアを持ち寄っているいろいろな作品作りに挑戦しています。昨年度はスマホクリップが大人気でした。

これらのバザーの売上げは、主に災禍に見舞われた地域への寄付などに充てており、特に宮城県南三陸町とは震災以降10年以上つながりを持ち、相互交流も続いています。

「藤の会」では、今後も手作り出来る人も苦手な人も一人ひとりが無理のない範囲で細く長く活動を続けていきたいと願っています。ご興味おありの方は、ぜひ一度聖母教育支援センター事務局 (kouza@sibo.ed.jp)までお問合せください。お待ちしております。

活動日時：基本は第2金曜日、第4金曜日

場 所：聖母女学院法人本館(赤レンガ)2階 211号室：



深草100円商店街にて



中高等学校にて



中高等学校にて



小学校にて



手作り品作製活動

ガーデニングボランティアサークル

藤森キャンパス

「ここにも花が咲いてれば良いのに」男子小学生の呟きを聞いたのがきっかけで [もっと学校に花を咲かせよう]とこの活動が本格的に始まりました。今年で10年になります。花の事は何も知らない未経験者ばかりで始まったサークル、様々なメンバーが集まり構成されています。

☆子供達の声やバックコンサートに活動しています。活動をしながら子供の事等 経験豊富なOG.OBの方に相談にのってもらったり、アドバイスも貰えます。全く行けない月があってもOK、隙間時間で参加できます！(保護者)

☆足を止めて下さる方や子供達の「いつもありがとうございます」の声にパワーを貰っています。手入れした花が綺麗に咲いてくれると心が潤います。(卒業生、元教員)

☆参加して3年目です。男性はまだ私一人ですが楽しく活動しています。一緒に活動出来る男性募集中です。(卒業生)

☆子供は卒業していますが参加しています。子供達の「わぁ綺麗！」の声が嬉しくて お花の水やり草抜き等お喋りしながら楽しく活動しています。(卒業生の保護者)

☆昨年夏から参加してます。毎回色々な事を学べる時間を皆さんと一緒に過ごせてとても楽しいです。お花って多くの事を繋いでくれます。(卒業生)

皆さんも是非一緒に如何ですか？気軽にご参加ください。

活動日 金曜日 10時～12時

お問い合わせは、聖母教育支援センター事務局 (kouza@sibo.ed.jp) 迄よろしくお願い致します。



正門ロータリー内にて



中中学祭にて

第10回南三陸町支援体験ツアー

☆ H・M 氏

初めてこのツアーに参加した時は、聖母の生徒さん達と長い道のりを丸一日かけてバスで行きました。修学旅行の付き添いのような気分でした。

しかし被災地は津波でスクラップになった車が高く積み上げられ、家屋のあったであろう場所には草が生い茂っていました。

その被害のあまりの惨さに言葉を失い、思わず涙してしまいました。

今回同じ場所に行ってみると盛り土整地され何事もなかったかのように様変わりしていました。

風景は変わっても、この震災を決して忘れてはならないと思います。

今回も南三陸町の方々に手厚く歓迎していただき、たくさんの元気を頂戴しました。



南三陸町にてきりこ体験



気仙沼市児童養護施設旭が丘学園にて

☆ M・M 氏

第10回目の南三陸支援ツアーはコロナのため少し間をおいてのものでした。

その間にも嵩上げされた土地に新しい大きな建物がたくさんできていました。

その反面防災庁舎や高野会館などはそのままの姿をとどめ大きく明暗を分けていました。

初めて行った時にお会いした方々とはもう10年以上のお付き合いとなり、私にとって第二の故郷のようです。

各地で地震や災害が起こる度に南三陸町の事を思い出します。忘れられない、忘れてはいけない思い出です。



南三陸町波伝谷地区仮設住宅にて



南三陸町高野会館にて

☆N・Y氏

昨年、10回目南三陸町支援ツアーに参加しました。荒浜小学校では震災当時の映像を見ました。画面に映し出される生々しい光景に、胸が締めつけられるような思いで、津波の猛威、必死に避難する人々、それを呆然と見つめる子どもたちの姿—忘れてはならない現実が、そこにはありました。

次いで写真の場所についてですが、

写真の場所に刻まれた言葉は、未来への警鐘として心に響きます。「地震があったらこの地よりも高いところへ逃げること」。この教訓を胸に刻み、命を守る行動を考え続けたいと強く思いました。

また、南三陸町震災復興祈念公園を訪れ、静かに手を合わせました。震災の爪痕を残しつつも、さんさん商店街など、復興への歩みを進める町の姿に、人々の強さと希望を感じました。

さらに、南三陸311メモリアルも訪れました。展示されていた震災の記録や証言、当時の遺物は、津波が奪ったものの大きさを物語っていました。そこには、悲しみとともに、地域の人々が伝え続けようとする「命の大切さ」への強い思いが込められていました。震災から学ぶことや、語り継ぐことの重要性を改めて実感しました。私自身もこの記憶を子供達そして孫達へと未来へつなげて伝えて行きたいと思いました。



南三陸町 五十鈴神社



仙台市立荒浜小学校にて



南三陸町五十鈴神社 石碑

☆Y・K氏

私は、第2回に参加させていただいてから二度目の参加になりました。
初めて参加した時は、バス移動の長旅だったこと、仮設住宅に訪問させていただいたり、りんご園でお手伝いさせていただいた事などを思い出しました。

久しぶりに訪れた町は、とても綺麗になっていました。
震災遺構として保有されている防災対策庁舎が残る「南三陸震災復興祈念公園」の整備された様子を見渡していると何とも言えない気持ちになりました。



第2回(2012年)

南三陸町防災対策庁舎



第10回(2024年)

南三陸町防災対策庁舎



南三陸311メモリアルにて

伝承施設「南三陸 311 メモリアル」では、住民の証言映像を鑑賞してから、自然災害について学び合うラーニングプログラム「命を想う」に参加し参加者同士で考え話し合う事で、防災意識を高めることが出来ました。

民間震災遺構「高野会館」では、内部見学もでき悲惨な状況を見て津波の脅威を感じました。

「Yes 工房」では、オクトパス君の他にも皆さんが工夫して色々な物を作っておられ、目移りしてしまいました。お気に入りのは、「旅するかまぼこ」のポーチです。今回参加させていただいて、長年交流されてきた「ビーンズくらぶ」の皆さんや南三陸町の方々との強い絆を感じました。



南三陸町ビーンズくらぶの皆様



南三陸町「いりやど」にてビーンズくらぶの皆様と交流会

☆M・T氏

2011年3月11日、東日本大震災発生。8月16日から、教育支援センターと南三陸町の方々とのつながりが始まる。次は区切りの第10回目、と思っていた矢先、新型コロナウイルス感染症でストップせざるを得なくなる。そして2024年5月、5年ぶりに第10回目の実施。しかしそこには、それまで団長としてみんなの先頭に立ち引っ張って来てくださった廣岡将人さんの姿はありませんでした。1月に脳腫瘍で夭折。その無念さをも心にのせてのツアーとなりました。

センターからの南三陸町のみなさまのお元気な様子をお聞きしてはいても、町は？ビーンズくらぶの面々は？神社は？お店は？と待ちきれない思いで飛行機に乗りました。

第1回目で目にした、瓦礫の山、津波の爪跡の木々の色の变化、悲痛な表情での語り部のお話。。

その後、セイトカアワダチソウの蔓延、熊笹。数え切れないクレーン車の数・大型トラックの列。。

そして今見渡せば、堤防の圧迫感はあるものの、説明を聞かなければ、あれっきれいな町！

さんさん食堂に鎮座していたモアイ像も、新しい広い公園の隅に全体を見渡すように置かれてはいるものの、その場へ行かなければ見れない。修学旅行生の記念撮影だけのため？と寂しさを覚えた。

土砂降りの中、初めに訪れた仙台市立荒浜小学校ではエレベーターまで設置され、震災当時のフロアへと導いてくれた。流されていく様子は何度見ても辛い。最初の頃、編集されていない映像にショックを覚えたことを思いだした。

お昼は牛タンでお腹を満ちし、夜は懐かしい「志のや」さんのみなさんに再会し、ホヤの味に舌鼓をうつ。

置くと合格できると大人気のオクトパス(鮨)の文鎮で世に知られた Yes 工房を見学して説明を受ける。販売のみならず、手作り体験実習もと、震災に対する啓蒙活動にも更に工夫されていました。オクトパスくんは、学校にも家にもでんと構えて笑顔を振りまいてくれています。

いりやどにもどり、懐かしいビーンズくらぶの声で、一気に途絶えていた距離が消える。自己紹介と生産の苦労や楽しさ、名産としての収穫を伸ばしていることで話が盛り上がる。まだまだの気持ちを押さえてお開き。土砂降りの中みんなの声はどこまでもはずんでいた。

2日目、建築家隈研吾設計の南三陸 311 メモリアルではグループになり、映像を見ながら、お互いに話をしながら、自分の生命を守るためには他者とのかわりが必要なことを学ぶ。

さんさん食堂をまわり、南三陸ワイナリーまでいき、新しい取り組みへの応援も兼ね、海に沈めて貝殻がついたワインを買う。何となく違う気がしてグラスを傾けた。

ひころの里へ足をのびし、お米のおいしかったこと、テントや、ごろ寝、生徒たちとのバーベキューでの笑い声が昨日のように思い浮かんできた。誰よりも前に立ち、私達のために動いてくださっていた登美子さんが亡くなられたことにはショックを受ける。感謝と共にご冥福を祈るばかりです。

3日目、ホテル観洋の語り部さんと「被災地をめぐるツアー」に参加。語り部さんも、要所を踏まえ、効率のよい、有意義なツアーでした。

町並みは変わった。

でも、牛タンの香り、「志のや」の味、「いりやど」のお味噌汁、すべてが13年前とかわっていない。昔からの味を保っていることの素晴らしさ。意気込みを感じた。これが前に進める原動力なのかもしれないと思った。

多くの人にいつおきるかわからない自然災害を、肌で感じてもらうためにも、経験者が語り、共に考え、次の世代へつないで、一人一人のかけがえのない生命を守っていかねばならないと強く思います。

このツアーは10回を区切りとしましたが、一区切りであって、これからも長く続くことを願うと共に南三陸のみなさまの頑張りには負けたくないよう参加も続けていきたいと思えます。

嬉しいことに、8月に、ビーンズくらぶのみなさまが、年に1度の小旅行に、京都を選んでくださり、お会いすることができました。学校を見ていただいた後、四条鴨川沿いの「鶴清」の納涼床でのお食事とお喋りで大盛り上がりでした



ビーンズくらぶ皆様と法人本館前にて



ビーンズくらぶの皆様と納涼床にて

3. 11 from KANSAI 2025

震災復興イベント ふりかえり、いまを検証する

2025年3月8日 土曜日 13:30~17:30 大阪公立大学文化センターホールにて開催されました。福島県相馬市・宮城県南三陸町・石川県七尾市の被災地の方々の体験談と現在の取り組みを聞かせていただく貴重な会に参加いたしました。第1回南三陸町支援体験ツアーより大変お世話になり聖母女学院にも何度もお越しいただきました阿部忠義様(一般社団法人南三陸研修センター代表理事)もこの会にてご講話くださいました。



震災復興イベントにて



震災復興イベントにて



震災復興イベント懇親会にて



手作り講座のご案内

「始めましょう！ 塩麴で発酵生活」

日本にしかない国菌＝麴、発酵が日本人の健康を支えてきました。季節の食材を使った食事でカラダを整えることは誰にもできる健康法。病気に傾かないようにしていこうという考え方が薬膳です。今回の講座は塩麴作りです。お誘いあわせのうえ是非ご参加をお待ちいたしております。

2025年 7月3日(木曜日)時間:10時～12時 場所:本館《赤レンガ》211号室

講師:菊池 明美先生 定員 20名 先着順 材料費: 2,000円

持ち物:エプロン・タオル(手拭き用)・筆記用具

《講師プロフィール》

☆ギャラリーカフェの創作料理アシスタント、カフェスイーツ作り、料理家アシスタント後、マルシェ、講座、座学、クリニック入院患者様の食事のアドバイス、発酵と料理教室を開催しています。

☆国際中医薬膳管理師 ☆上級麴士、☆発酵食エキスパート1級 ☆茶色いお菓子マスター、☆味育マスター

※ お申し込みはこちらよりお入りください。

申込み締め切り日 2025年6月26日木曜日

※次回手作り講座は12月にフレッシュクリスマスリース作りを予定しております。おたのしみに！！



聖母教育支援センターボランティア室では各部会のボランティア活動を

一緒にして下さる方を募集しております。お問い合わせは、聖母教育支援

センター事務局 (kouza@sibo.ed.jp) 迄お願い致します。

